

【焼津福祉文化共創研究会】2025 年度活動計画(案)

活動テーマ:地域活動実践事例から、これからのご近所福祉のあり方を探る

1. 本会活動 6 年間のプロセスと原点を質す

2016 年度に、既存の組織である「港地域づくり推進会」(港第 14・23 自治会組織)管内の住民に「地域を知ること」から始まる市民主体の地域づくりをめざす「港地域ささえあい講座」の開講を呼びかけた。介護保険制度の導入により、「公助」ですべてが解決できる社会の動きが感じられていた時期に、失われつつある「共助」の再構築を期待した。

当初は、介護対象の「高齢者」を取り巻く地域問題を中心に開講したが、参加した市民からの要望を組み入れ、「障害児者を取り巻く課題」、「児童を取り巻く課題」等を加えながら 3 年間、「理論と実践の融合」をもとに、延べ 614 名の参加者とともに、「楽しいを創る地域の学び」を心がけながら講座に取り組んだ。住民主体の学びに徹した講座から、尊い「実践からの 10 の証」が浮き彫りになった。これらを研究協議する「市民活動団体」として、講座に関わった有志 14 名で 2019 年度「焼津福祉文化共創研究会」を結成し、即「焼津市ボランティア連絡協議会」に 23 番目の団体として加盟した。

【3 年間開講した「港地域ささえあい講座」からの尊い「10 の証」】

- (1) 語れる地域環境の醸成 (世代を超えた地域総合型学習形態の仕組みづくり)
- (2) 「地縁組織」(お互い様)と「志縁組織」(使命感)の融合による地域づくりの取り組み
- (3) 「専門性」と「市民性」の融合 (管内福祉施設連絡会とのネットワーク化と介護力 UP)
- (4) 当事者組織化の支援
- (5) 具体的な地域の生活支援策の把握
- (6) 管内のささえあいの仕組みづくりを議論する
- (7) 総合的地域支援組織の再構築 (トータルコーディネート機能)
- (8) 地域を「見える化」する広報啓発
- (9) 制度施策を理解する地域福祉教育環境の醸成
- (10) ご近所福祉の復活

結成当初から「集める会」ではなく、「集まる会」を基本にして、現在 6 名の会員で 7 年目の活動に入る。年度ごとの活動テーマをもとに、人脈とともに、活動の拠点を維持しながら、これまで、活動財源の開拓に努め、尊い「焼津市赤い羽根共同募金 地域福祉促進助成事業」、「静岡県コミュニティづくり推進協議会 コミュニティ活動集団助成事業」、「公益財団法人さわやか福祉財団 地域助け合い基金助成事業」等により、地域の課題を中心に活動を展開し、下記の通り、その年度の検証結果をもとに、地域住民に課題提起をしてきた。

■ 1 年目(2019 年度)

活動テーマ【港地域の“ご近所”を切り拓く 集まる居場所で地域ぐるみのささえあいを検証する】

約 5,000 世帯をもって構成されている「港地域づくり推進会」(港第 14・23 自治会)管内において、今日まで、地域や個々の人々のつながりの中で、気兼ねなく集まり、会話を交わし、ふれあい交流し、普段の拠り所としている「居場所的機能」を持つ 55 の既存の各種団体・グループを把握し、「集める居場所から集まる居場所」を課題提起した。

■ 2 年目(2020 年度)

活動テーマ【港地域のご近所を切り拓くパート 2—協働による地域課題解決を探る】

1 年目に取りまとめた結果をもとに、さらに把握に努めるとともに、管内関係団体や住民に機会があるごとに情報を提供し、改めてこうした既存の団体グループの様々な取り組みを地域住民が共有し、積極的に地域参加する機会を呼掛け、「ご近所福祉 その意識と実態調査」に取り組み、地域で顔の見える“近助”の関係づくりができる「協働による地域づくり」を働きか

けた。

■ 3 年目(2021 年度)

活動テーマ【港地域をつなぐ・ささえあう“ご近所福祉”を創る】

これまでの2年間にわたり考察・実践してきた活動のプロセスから改めて、港地域の現状を踏まえ地域を家庭化し、世代を超えて誰もが地域づくりに関わられるご近所を“地域の居場所”としていく活動に取り組み、子どもを対象に管内関係団体・学校関係者の協力により、「福祉ってなに? 244 名の子どもたちにききました調査」に取り組み、尊い子どもたちからの意見を大人社会への提言としてまとめた。

■ 4 年目(2022 年度)

活動テーマ【わかる・見える実践活動で“福祉文化としてのご近所福祉”を探る】

前半では、「みんなで創る福祉を学ぶ講座」を開講するとともに、前年度の「子どもたちから、大人社会への提言」を、改めて地域住民と共有する学習の機会を持った。

長引く厳しいコロナ禍の中で、「高齢者」を取り巻く地域環境を危惧し、さらに具体的な活動テーマを「地域共生社会をめざす仕組み検証事業 高齢者とともに、地域共生社会を拓く～ホッとする地域づくりは誰が担うか～」を掲げて、「ホッとする安心した地域づくりその意識と実態調査」に取り組み、管内の315 名の高齢者から尊い意見をいただき、地域社会に向けて、「ホッとする地域づくり」を問題提起した。

中学校区を対象に取り組んでいる本会と、県域を対象に活動している「静岡福祉文化を考える会」と協働で「地域共生社会調査研究部会」を設置し、地域共生社会をめざす仕組みを検証した。

■ 5 年目(2023 年度)

活動テーマ【港地域のニーズ把握から“福祉文化としての港地域のご近所を描く”】

これまでの5年間を振り返るとともに、「地域ぐるみの居場所の検証」、「ご近所の支え合いの検証」、「子どもを取り巻く地域を検証」、「高齢者を取り巻く地域の検証」「中学生のご近所その意識と実態検証」等、「地域を知る」、「地域の現状の把握と課題発見」に取り組んできた。

5 年目は、これまで、地域社会では、中学生の地域参加を大いに期待しながらも、地域コミュニティの希薄化、家庭・家族機能やご近所福祉(支え合い)の多様化とともに、その基盤が不透明化で危惧され、加えて、厳しいコロナ禍下にあつて、一方では、制度や公助による意図的な支援が当たり前の社会環境にある中で、住民主体の地域の支え合いや、若者との日常的な交流環境には至っていない。地域社会に明るい兆しが見えてきた時期に、これからの地域づくりに向けて、地域社会に関心を抱き、近い将来の地域の担い手を期待し、管内の中学生対象に、身近な地域に対する意識と実態を把握し、世代間交流できる地域社会づくりに、若者の地域参加の必要性を呼びかけ、地域社会の活性化と、地域づくりの再構築を検証する目的で、「私にとって“ご近所”とは、中学生の意識と実態調査」を実施した。

協働団体の「静岡福祉文化を考える会」とともに、「共創社会実現研究会」を設置(10 回開催)するとともに、管内2つの中学校(小川中学校・港中学校)をはじめ、小川地区及び港地区のコミュニティ推進組織、焼津市民生委員児童委員協議会、さわやかクラブ連合会やいづ等の協力のもと、中学生からの意見をまとめ、若者が参画できる地域づくりに向けた大人社会への提言としてまとめ、地域社会に働きかけた。

■ 6 年目(2024 年度)

活動テーマ【活動5年間の調査研究事業実績から、“ご近所福祉”を検証する】

これまでも、毎年度の活動を振り返りながら、掲げた活動テーマに沿った、地域活動に取り組んできた。改めて、これまでの5年間の活動から浮き彫りにした検証事項「地域ぐるみの居場所の検証」、「ご近所の支え合いの検証」、「子どもを取り巻く地域を検証」、「高齢者を取り巻く地域の検証」「中学生のご近所その意識と実態検証」を改めて振り返りながら、ホッとする「ご近所福祉」について、会員の身近なご近所の現状をもとに研究協議をした。

併せて、協働団体:静岡福祉文化を考える会とともに、「共創社会実現研究会」を設置(全8回)

し、地域福祉教育教材として作成し10年間、「若者発 ご近所福祉かるた」を配布提供してきた、関係団体、地域実践者、居場所設置地域等に活用状況調査を実施し、実践的体験的学びの内容を、「若者発 ご近所福祉活用事例集」に取り入れ、成果物を広く県内各領域に提供した。

2. 7年目の活動テーマ「地域活動実践事例から、これからのご近所福祉のあり方を探る」の具体化に向けて

(1) 本会の活動基調は、

【焼津福祉文化共創研究会の3つの活動基調】

- (1) さまざまな分野で活動する人たちや福祉職に従事する人たちが、専門分野と世代を超えて交流を図る。
- (2) 会員だけが求心的・閉鎖的に集うのではなく、広く市民に開かれた活動をめざす。
- (3) 既存のコミュニティ・福祉組織の活動から取り残された問題や新しく発生してきた問題を大切に、つねに市民生活に密着した活動をめざす。

(2) 活動の着眼項目

- ①これまで公表されてきた、県内外の「地域実践活動事例」をもとに、“ご近所福祉”を検証しつつ、この6年間の「ご近所福祉の地域課題」を整理し、これからの地域づくりについて議論を深める。困りごとを解決する支援及び地域資源を議論し合う。
- ②「地縁組織と志縁組織」を探り、「協働」の意義を質す。
- ③会員はじめ、地域活動に関心のある地域住民に呼びかけて、「語れる環境」、「地域総合型学習」の醸成に努める。
- ④「教育とコミュニティ」「教育と福祉」「理論と実践」「専門性と市民性」の『融合』を質す。
- ⑤「若者発 ご近所福祉かるた」を地域福祉教育教材として、ご近所福祉の推進に、更なる活用方法の開拓に努める。

3. 具体的な活動内容

(1) 会議等

① 役員会の開催

- (a) 実務型役員会運営に徹し、一丸となって、活動の進捗状況管理と検証に努める。
- (b) 様々な地域実践活動から、「地方発 福祉文化の創造」を問題提起する。

② 定例研究会の開催

- (a) 原則、毎月第2土曜日、18:30～21:00を定例開催日とする（別添活動計画表参照）。
- (b) 各種活動の状況に応じて、臨時研究会をもって、円滑な運営に努める。

③ 事業関連部会設置と開催

- (a) これまでの6年間の活動の取り組みから、「調査研究部会」、「広報部会」、「研修部会」を必要に応じて設置。
- (b) 本会活動の活性化と円滑な展開のため、事業別部会を設置して運営する。

(2) 調査研究事業

①「ご近所福祉」を検証する

「1年目活動：地域ぐるみの居場所検証」「2年目活動：ご近所福祉 その意識と実態調査検証」「3年目活動：児童の福祉意識検証」「4年目活動：高齢者福祉意識検証」「5年目活動：中学生ご近所意識検証」の5年間のあらゆる角度の取り組みから「ご近所福祉」を前年度検証した。今年度は、困りごとを解決する支援方法や地域資源を研究協議する。

②「若者発 ご近所福祉かるた」の更なる活用事例を収集する

協働団体：静岡福祉文化を考える会が、企画制作した「若者発 ご近所福祉かるた」をこれまで10年間提供した県内の福祉施設・グループ・団体、地域実践者に「活用状況」を問い合わせた結果をもとに、各領域における活用状況をまとめた「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」を更に、多くの活用事例に発展できるように、活用事例を収集する。

(3) 研修事業

- ①県内外の各地区の地域実践活動事例をもとに、“ご近所福祉”を検証し、身近な地域のあり方を議論する。
- ②「若者発 ご近所福祉かるた」の活用方法を考える
平成27年度、令和3年度及び令和6年度に、協働団体：静岡福祉文化を考える会が企画・制作（合計300セット）した「若者発 ご近所福祉かるた」の活用方法をこれまで作成した「若者発ご近所福祉かるた利用の手引き」及び「若者発ご近所福祉かるた活用事例集」をもとに定例会等中心に研究協議をする。
- ③現場実践の機会を持つ
「若者発 ご近所福祉かるた」の活用による「近助」の在り方を、学校教育領域をはじめ、コミュニティ組織、志縁組織、企業、施設等において学び合う機会を働きかける。
- ④「会員レポート」の取り組み
定例研究会において、それぞれ会員が日ごろ考えていること、思っていることを「テーマ」に語り合い、その後、意見交換の場をつくる。

(4) 広報事業

- ① 「日本福祉文化学会」HPを主体に、「静岡福祉文化を考える会」ブログとのリンクによる本会ブログにより、広く活動を通じた問題提起を発信。
- ② 焼津福祉文化共創研究会通信の発行（原則、毎月1回発行、A4版、両面印刷）
主には、メール発信に努めるとともに紙媒体で補う。
- ③ マスコミへの積極的な情報提供

(5) 協働活動

- | | |
|---------------|--------------------------|
| ① 管内福祉施設連絡会 | ④ 管内各種団体・グループ（地縁組織と志縁組織） |
| ② 静岡福祉文化を考える会 | ⑤ 管内学校教育及び社会教育領域 |
| ③ 焼津市V連絡協議会 | ⑥ 県及び焼津市関係機関・団体 |

(6) 関係機関・団体との連携

- ① 静岡県社会福祉協議会、焼津市社会福祉協議会及び近隣社協への情報提供・連携
- ② 「地方発 福祉文化の創造」の実践を基に、静岡福祉文化を考える会及び日本福祉文化学会との情報共有と活動の協働
 - 各種事業の取り組みについての情報提供
 - 各種事業の実践活動の共有
- ③ 関係機関・団体、大学・専門学校及び管内学校教育（小・中各2校）・社会教育領域への情報提供
- ④ 焼津市V連絡協議会との連携
 - 定例総会出席
 - 定期V連代表者会出席と情報提供（通信配布）、問題提起による活動活性化の提言
- ⑤ ふじのくに未来財団への情報提供
- ⑥ 静岡県コミュニティづくり推進協議会（コミュニティ活動団体として）への情報提供
- ⑦ 管内福祉施設連絡会との連携と情報共有（通信配布）
- ⑧ 港地域づくり推進会、港地域交流センター、小川地域交流センター、小川地区コミュニティ推進会及び管内自治会（町内会）への情報提供
 - 通信送信
 - 各種活動状況報告
- ⑨ 焼津市民生委員児童委員協議会への情報提供
- ⑩ 公益財団法人あしたの日本を創る協会への情報提供
- ⑪ 公益財団法人さわやか福祉財団への情報提供
- ⑫ その他、必要に応じて関係機関・団体に情報提供